

P-1. 南海トラフ巨大地震を想定した津波防災情報図

氏原直人・山内明彦(海洋調査課海洋防災調査室)

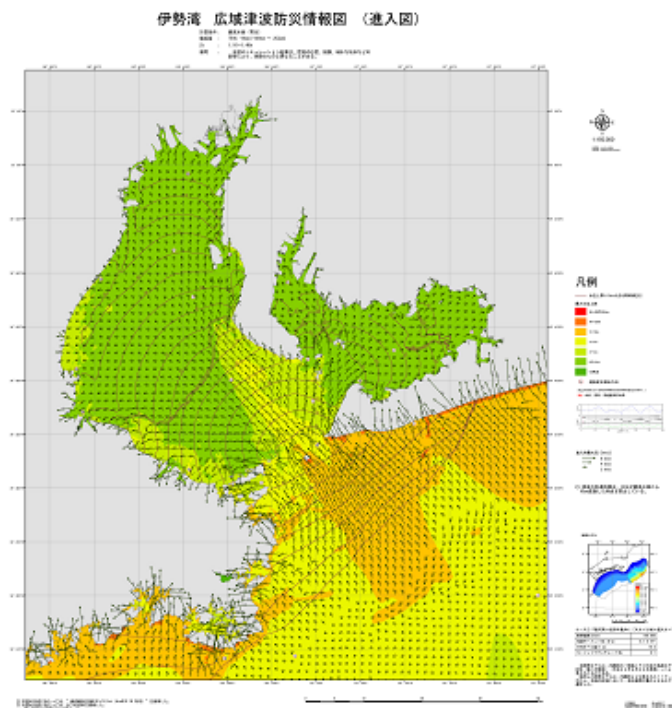
三枝隼(総務部政務課)

橋本崇史(企画課)

海上保安庁では、将来発生が懸念される東海地震、東南海・南海地震などの断層モデル（津波断層モデル）を対象として津波シミュレーションを実施し、海域における津波の挙動を示した津波防災情報を整備している。

津波防災情報は、津波来襲における迅速な救助活動及び船舶交通の安全確保を図るなど海上保安庁の津波防災対策に利用するだけでなく、主要港湾の港湾関係者・海事関係者等からなる津波対策協議会などへも提供して主要港湾の防災対策にも利用されている。津波防災情報の内容としては、最大津波高や最大流速が示された津波防災情報図のほか、任意の地点における津波高、津波の流向・流速を時間毎のグラフで示した経時変化図、時々刻々と変化する津波の挙動を示した津波アニメーションが含まれる。

現在、海上保安庁では、2012年に内閣府から公表された南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）の断層モデルを使用し、東京湾・伊勢湾・大阪湾等の主要湾を中心にシミュレーションを実施している。



図： 南海トラフの巨大地震を想定した津波防災情報図の例（伊勢湾）